

ゴム製品であるタイヤは、未使用だとしても時間とともに状態を劣化させていきます
たとえ溝が十分にあり、ひび割れが無かったとしても、さまざまな要因によって目に見えないゴムの劣化が進行している場合もあります

タイヤの製造年月日などは、タイヤ交換時期の目安となる重要なポイントになりますので

3～4年毎の交換を推奨します

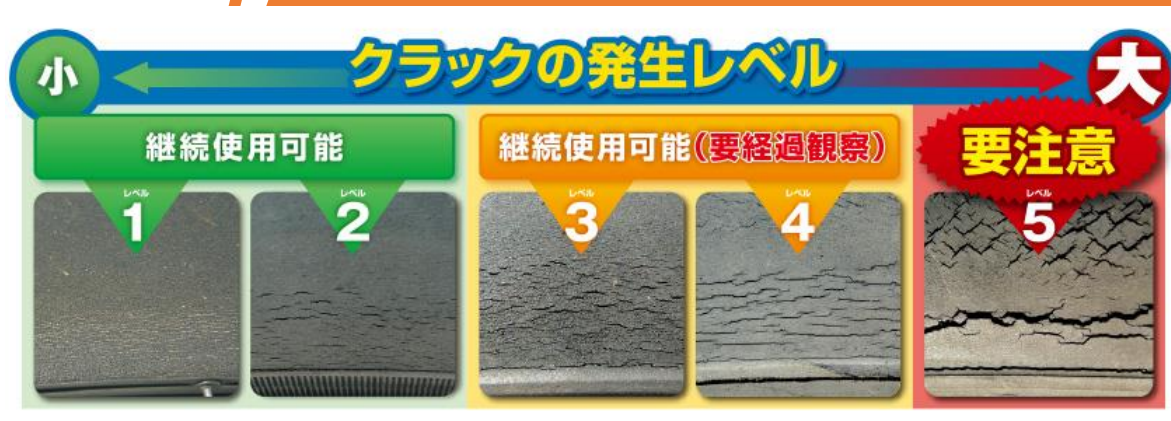


製造年週拡大イメージ

DAJ5016

タイヤの製造年と週 5016

- ① タイヤが製造された週 50週 (12月)
- ② 製造年の下2桁 2016年



◇タイヤ

タイヤの残り溝は、目安として5,000kmの走行で1mmほどタイヤが摩耗すると言われています

新品のタイヤの溝は約8mm程度でつくられていますから、32,000kmほどの走行でタイヤの溝は1.6mmになる計算です

タイヤの残り溝が3mm程度あったとしても、雨天時の高速走行ではタイヤのグリップ力は
極度に落ち込み、制動距離が大きく伸びてしまいます